

2026年 新年のごあいさつ

2026年 公益財団法人 食の新潟国際賞財団 新春講演会
第6回食の新潟国際賞大賞受賞 ペシワール会講演会

2026年（令和8年） 新年のごあいさつ



新年あけましておめでとうございます。

皆さまには幸福で飛躍の年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年も当財団の活動と運営にご理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は当財団創立15周年記念式典とシンポジウムを開催し、財団創設時からこれまでの歩みを振り返り、創立20年に向けて新たな出発をすることができました。

また、第9回食新潟国際賞の受賞候補者募集し、国内外から多くの御推薦をいただき、選考委員会議を経て今年6月の理事会において受賞者が正式決定されることとなります。

今年11月24日（火）に開催されます表彰式には、素晴らしい活動と功績をあげられた皆様が表彰されますことを今から楽しみにしております。

このほか、特に力を入れていることは、若い人達の参加による交流事業です。

国際賞の冠である「佐野藤三郎氏」の偉業を広く伝える事業として、昨年、新たに開催いたしました「新潟市名誉市民 佐野藤三郎マンガ感想文コンクール」には115人というたくさんの新潟市内小学生から素晴らしい作文が寄せられました。

佐野藤三郎氏について、次代を担う子供達から身近に知ってもらう良い機会であり、今年もより多くの参加を期待しているところです。

また、昨年第4回目を迎えた「にいがた食と農の未来」学生ビジョンコンテストも県内の大学・専門学校から21チームが参加し、若者らしい夢や斬新な提言が発表されました。

今年も新潟の食産業や農業の未来を担う人財育成事業として開催いたします。

そして、当財団の幅広いネットワークを生かし、食と農に関するタイムリーな情報を提供するシンポジウムや講演会も引き続き開催いたします。

本年も国際賞の基本テーマである「食と生命」を胸に「世界が抱える食の問題に向き合い、命の尊厳を守る、それが、私たちの願いです」を掲げ、本年も事業活動を続けてまいります。

皆様には変わらぬにご支援をお願い申し上げ新年のご挨拶といたします。

分断化する国際情勢と 大転換期を迎えた日本農業を展望する — 新潟へのメッセージ —

今、世界情勢は混沌とし、自国ファーストの風潮が増す中、世界は分断化し国際協調や国境を越えた国際協力や支援活動が危機にさらされ、その意味と必要性が改めて問い直されております。

激動する世界情勢と国連や国際関係機関の役割を考え、世界の食糧問題等をどう乗り越えるかを考えます。

また、令和の米騒動で日本農業に対し国民の大きな関心と注目が注がれる中、日本農業は大きな転換期を迎えています。

一方、農業や食品分野の技術革新が大きく進み、新たな農業が期待される中、食料システムの観点からこれからの新潟の農業への提言もお聞きします。

日 時 2026年 2月 9日(月) 13:30~16:00

会 場 ホテル イタリア軒 3階 サンマルコ (新潟市中央区西堀通7番町1574)

定 員 100名 (先着順・無料)

《 基 調 講 演 1 》



「日本経済の転換期に農業はどう対応するのか」 — 食料システム論から米政策を検証する —

武本 俊彦 氏 新潟食料農業大学 名誉教授

「新潟市農業将来ビジョン」研究委員会 座長

東京大学法学部卒業。1976年農林省（現・農林水産省）に入り、ウルグアイ・ラウンド（UR）農業交渉、食糧管理制度、農業振興地域制度、BSE（牛海綿状脳症）問題などを担当し、2013年農林水産政策研究所長で退官。以後、食と農の政策アナリストとして活動。

18年4月～24年3月新潟食料農業大学教授。25年1月同大名誉教授。

主著に「食料システム論～『食料・農業・農村基本法見直し』の視点～」(24年、東方通信社)。

《 基 調 講 演 2 》



「予測不可能な世界情勢と日本の針路」 — わたしたちは何ができるか？ —

赤阪 清隆 氏 公益財団法人ニッポンドットコム 理事長
元国連事務次長

京都大学、ケンブリッジ大学卒。1971年に外務省に入省。1988年GATT(WTOの前身)事務局、1993年世界保健機関(WHO)事務局、2000年に国連日本政府代表部大使を務める。2003年に経済協力開発機構(OECD)事務次長、2007年から2012年まで国連広報担当事務次長(広報局長)。2012年より2020年まで、公益財団法人 フォーリン・プレスセンター理事長。2022年より現職。同時に、一般財団法人英語教育協議会(エレック)理事長。

近著に、「国際機関で見た「世界のエリート」の正体」(中公新書ウクレ)、「世界のエリートは人前で話す力をどう身につけるか」(河出書房新社)がある。

主 催 公益財団法人 食の新潟国際賞財団

お問合せ 公益財団法人 食の新潟国際賞財団 事務局 (〒951-8063 新潟市中央区古町7番町1010番地)

電話：025-201-8901 FAX：025-201-8902 メール：info@niigata-award.jp

ホームページ：https://www.niigata-award.jp



Niigata Award

公益財団法人 食の新潟国際賞財団

2026年 新春講演会

お 申 込 書

日時 2026年2月9日（月）13：30～16：00

会場 ホテル イタリア件 3階 サンマルコ（入場無料）

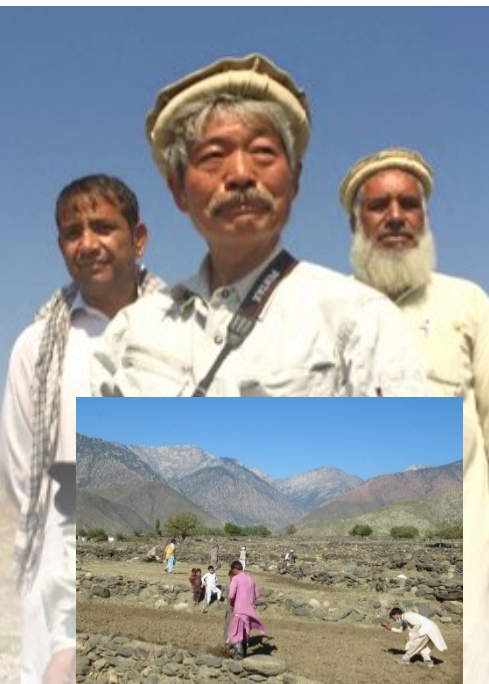
お申込み方法

- 必要事項（氏名・所属・住所・電話番号）を記入して2026年2月3日（火）までにEメール（info@niigata-award.jp）にてお申込みください。FAXでのお申込みも受付けております（下記お申し込み記入欄）。
- 先着100名で定員になり次第、締切とさせていただきます。超過の場合のみご連絡いたします。
- 入場整理券は発行いたしません。当日直接会場受付へお越しください。（13時00分頃 受付開始）
- ご記入いただいた個人情報は、当財団主催事業の開催のご紹介などに使用させていただきます。
- 発熱や咳・咽頭痛などの症状のある方、体調に不安がある方はご来場をお控えください。
- 社会情勢等の変化により、講演会の変更または中止する場合があります。ご了承ください。

FAX用 お申し込み記入欄

個人・会社・団体名 (必須)			
住所 (必須)	〒		
電話番号 (必須)		FAX	
メールアドレス			
参加者氏名 (会社・団体の方は必須、複数可)	所属・役職 (会社・団体の方は必須、複数可)		

お問合せ 公益財団法人 食の新潟国際賞財団 事務局（〒951-8063 新潟市中央区古町7番町1010番地）
電話：025-201-8901 FAX：025-201-8902 メール：info@niigata-award.jp
ホームページ：https://www.niigata-award.jp



アフガニスタン現地の様子



2020年に第6回食の新潟国際賞大賞を受賞

医師 中村 哲 と ペシャワール会の 軌跡と継承

— 荒野に希望の灯をともし —

「今命を救うのは100の診療所より1本の用水路だ」

中村哲氏は、35年にわたり医師として混乱と干ばつに苦しむアフガニスタンで医療救援活動から始まり、医師という立場を越えて井戸の掘削や用水路の建設に取り組み、緑地と農業を再生し、多くの命を救いました。

今、世界は分断化し自国ファーストの風潮が増す中、国境を越えた国際協力や支援活動が危機にさらされ、その意味と必要性が問い直されています。

中村哲氏と長年共に歩んできた盟友ともいべき藤田千代子氏をお招きして中村哲氏の信念と次代に託されたものをお聞きます。

日時 **2026年3月11日(水) 13:30~15:30**

会場 **日報ホール 新潟日報メディアシップ 2階 (中央区万代3-1-1)**

定員 **100名 (先着順・無料)**

講師 **藤田 千代子 氏**

ペシャワール会PMS支援室長



鹿児島県出身。徳洲会病院(福岡市)勤務を経て1990年9月、当時中村哲医師の赴任先であったパキスタン・ペシャワールのミッション病院へ看護師として赴任。以降、医療活動を始め、井戸掘り、食糧配給、その後の用水路事業等、一貫して中村医師の現地活動を支えてきた。

1998年日本の寄付でペシャワールに建てられたPMS基地病院(総院長 中村哲)では、院長代理の責務を果たした。2009年、現地の治安悪化のため退避帰国し、現在ペシャワール会PMS支援室室長およびPMS総院長補佐として、現地活動を支えている。

2022年、フローレンス・ナイチンゲール記章を受章。



講演会

お申込書

日時 2026年3月11日（水）13：30～15：30

会場 日報ホール：新潟日報メディアシップ 2階（先着順・入場無料）

お申込み方法

- 必要事項（氏名・所属・住所・電話番号）を記入して2026年3月4日（水）までにEメール（info@niigata-award.jp）にてお申込みください。FAXでのお申込みも受付けております（下記お申し込み記入欄）。
- 先着100名で定員になり次第、締切とさせていただきます。超過の場合のみご連絡いたします。
- 入場整理券は発行いたしません。当日直接会場受付へお越しください。（13時～受付開始）
- ご記入いただいた個人情報は、当財団主催事業の開催のご紹介などに使用させていただきます。
- 発熱や咳・咽頭痛などの症状のある方、体調に不安がある方はご来場をお控えください。
- 社会情勢等の変化により、講演会の変更または中止する場合があります。ご了承ください。

FAX用 お申し込み記入欄

個人・会社・団体名 (必須)			
住所 (必須)	〒		
電話番号 (必須)		FAX	
メールアドレス			
参加者氏名 (会社・団体の方は必須、複数可)	所属・役職 (会社・団体の方は必須、複数可)		

● 特別会員

亀田製菓(株)
一正蒲鉾(株)
(株)第四北越銀行
(株)新潟日報社
亀田商工会議所
にいがた22の会
オイシックス・ラ・大地(株)

(株)ブルボン
サトウ食品(株)
(株)栗山米菓
(株)新宣
(株)新潟クボタ
(株)日本食糧新聞社

(学)新潟総合学園
新潟県農業協同組合中央会
亀田郷土地改良区
(株)エイケイ
NST新潟総合テレビ
五十嵐建設工業(株)

● 正会員

新潟県信用組合
(株)DI Palette
(株)本間組
石本酒造(株)
(株)ミカサ
神山物産(株)
ハセガワ化成工業(株)
藤屋段ボール(株)
(株)タケショー
BSN新潟放送
新潟陸運(株)
(株)新潟食品運輸
月島食品工業(株)
(株)ニッポン関東支店
日本甜菜製糖(株)
(株)鳥梅

新潟工科大学産学交流会
(株)キタック
北越工業(株)
丸榮製粉(株)
鍋林(株)ヘルスフーズ事業部
TeNYテレビ新潟放送網
(株)栗田工務店
三和薬品(株)
松田産業(株)
セツカートン(株)新潟工場
東邦産業(株)
麒麟山酒造(株)
(株)加島屋
(株)日本フードリンク
(株)ディモルギア
UX新潟テレビ21

イカリ消毒(株)
新潟工科大学
(株)田中組
(医)愛仁会 亀田第一病院
(株)ひらせいホームセンター
ワタキューセイモア(株) 新潟営業所
(株)エヌエスアイ
(株)トップライズ
(株)ウオシヨク
(株)ヤマダ
(株)新潟国際貿易ターミナル
(株)荏原製作所 北陸支社
(株)せいだ
新潟医療生活協同組合

● 個人会員

古泉 肇	藤島 安之	和田 充彦	廣瀬 利雄	山口 勉	高橋 常孝	田村 敏郎	杉本 克己
近藤 鴻	大川 秀雄	大倉 正寿	吉岡 謙一	坂田 武利	門脇 基二	大谷 勝男	佐藤 久栄
阿部 徳威	田中 作一	佐藤 和雄	大沢 一衛	佐藤 勉	大島 千春	野上 敏	渡辺 昭雄
槇坂 文晴	清水 良一	五十嵐 源一	新保 房機	古泉 榮三	佐藤 純	倉嶋 則昭	大越 斎
野口 正晴	酒井 定勝	松本 裕志	當野 篤	久保田 紳一	河瀬 三千夫	和澄 孝男	五十嵐 修
望月 健三郎	山田 雄治	鈴木 正二	竹石 松次	古泉 幸代	大森 ゆかり	高橋 慶三	阿部 昭一
渡邊 信也	大崎 新一	坂井 俊一	鈴木 伸作	佐藤 銀治郎	加藤 寿一	石附 由美子	斎藤 幸広
田辺 俊文	小田 静二	渡邊 徹	栗田 浩	栗田 朋子	阿部 文仁	高尾 茂典	五十嵐 豊
古泉 幸一	加藤 純子	高倉 広利	清水 泰成	阿部 愛子	宮口 澄子	五十嵐 康子	五十嵐 早苗
高橋 征男	高橋 克郎	田村 泰生	山崎 尉生	中村 雪絵	村山 浩太郎	稲葉 晋	川崎 千春
秋山 正之	松川 忠史	濱野 剛	小川 善弘	池田 祥護	星野 幸三	糸満 盛人	北垣 大介
小林 哲也	岡田 茂久	遠山 幸男	小野 隆樹	大橋 祐貴	前田 穰	桐原 隆晃	長井 基樹
岸田 良満	中村 健一	小林 宏志	柳澤 敏郎	遠藤 俊介	葉葦 正幸	津島 章彦	舟崎 義朗
小川 陽一	大日方 聡	宮下 好文	坂田 浩一	田中 雅史	藤間 佑輔	品田 卓也	渋谷 政道
村山 雄亮	北爪 文義	近藤 正	高橋 佑	荒井 弘美	重泉 篤史	本間 康弘	中野 克之
原島 徹	最上 正人	石田 勇介	佐藤 正尚	下條 幸二	廣川 正通	小谷 尚志	田中 弼
佐藤 浩晃	村山 和恵	小林 達	長谷川 久晃	酒井 栄一郎	佐藤 聡	小林 守	阿部 欣也
杉谷 浩一	榊原 由貴	金田 季之	宮島 泰	高崎 俊哉	高橋 裕作	小平 勝志	藤田 正明
池田 一史	宮嶋 一博	駒形 正明	藤井 大三郎	阿部 貴美	大沼 成勝	丸山 智史	岡田 龍
小野 隆樹	高橋 大介	伊藤 雅明	秋堂 春美	長谷川 克弥	田中 湖雄	牧 利幸	伊藤 正弘
本間 春治	早川 重男	樋口 正仁	伊積 豊	小林 稔	吉田 たかし	山本 善政	小島 隆
高橋 昭博	高橋 眞代	峰尾 昌明	大森 武士	鈴木 春次	徳橋 隆行		